

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200785
法人名	株式会社 WALK
事業所名	グループホーム白寿園戸出
所在地	富山県高岡市戸出吉住新14番1
自己評価作成日	令和4年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年5月16日	評価結果市町村受理日	令和4年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム白寿園戸出は、四季折々の季節感を感じられる場所にあり、その静かな環境の中で笑顔や笑い声が絶えない施設づくりを目指しております。ゆったりとした時間の中で一人ひとりの役割や楽しみを「共に見つけ共に行い共に笑い」時には心に寄り添うような関りを大切に支援しています。ご家族へは日々様子を毎月作成し、お伝えする、記念日には職員も陰ながらのサポートを行うなど家族と本人の絆をより一層深められるような支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の笑顔が多く見られ、笑い声が絶えない事業所である。職員は楽しく明るく笑って過ごせる事業所を目指し、食べることや外に出ることなど、新型コロナ禍でも一緒に楽しめるよう工夫している。また、利用者個人の写真を載せたお便りの作成や、家族と協力し行事を開催するなど、家族との繋がりを大切にしている。職員は家族からの手紙や言葉を励みに、より良い支援を目指し努力している。さらに、資格取得や研修開催など、職員のスキルアップを事業所全体で支援し、個々の能力向上に協力的である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関前及び廊下掲示板に運営理念、介護理念を掲示し、業務の中で理念を意識したサービスを提供できるよう努めています。	理念は玄関、廊下に掲示されている。また、職員トイレ、議事録、お便りなど、目に入りやすいよう工夫している。現在の理念はオープン時に職員で考えたものである。普段から事業所内で笑顔を大切にしようと声を掛け合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(文化祭やコンサート、左義長、獅子舞)に参加するようになり、施設の納涼祭やイベントにも来てもらえるよう努めていたが、コロナウイルス流行や大雪なども重なりできていません。近所の方が季節を感じて欲しいといった思いで鈴虫を持って来て下さることもありました。	新型コロナ禍で地域との付き合いが減ってきているものの、雑巾を作って届けてもらったり、顔を見た際にあいさつしたりするなど交流は継続している。近隣で新型コロナ感染者が出た際には、地域の方から意見をいただき、対策に努めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭やお祭りを開催し、認知症の理解や支援につながるよう努めていたが、2年前より新型コロナウィルス流行にてできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現在は職員のみで行っています。利用状況や現状を報告し報告書を玄関先や掲示板に掲載し、いつでも閲覧できるようにしています。	新型コロナ禍で委員が集まったの会議は開催できていない。利用者状況や報告書を作成し周知を図っている。報告書の内容はお便りに記載し、家族にも情報を提示している。	開催できなかった場合でも、事前に意見をもらい議事録を作成し、家族、地域、委員、職員への報告ができるよう、代替え方法の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウィルス感染拡大防止の対応方法やワクチン接種、人員基準に関する相談を行ったり、事故や苦情時の対応についても報告や相談を行ったりしています。	利用者状況などを報告し、新型コロナ禍における対策の相談を行っていた。直近では外部評価を運営推進会議で代替えする方法も相談している。日頃から連絡を取り合い連携を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、正面玄関ドアの施錠を行っています。外に出たいといった要望が聞かれた際はスタッフ付き添いの下、ドライブや施設周辺の散歩に行く事もあります。社内研修にて勉強会の実施、身体拘束廃止委員会も開催し、廃止に向けて取り組んでいます。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、情報の共有や知識の共有に努めている。委員会の記録は掲示板等に掲示し、職員間で情報を共有しやすいよう工夫している。外部講師を招いた研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において具体的に学び、普段から身体拘束や虐待はしないという意識をスタッフ間で共有しています。日頃から職員同士でも言葉がけなどに問題がないか目を配りながら、虐待へ結びつかないよう職員を交代したり対応行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に参加し学ぶ機会を持つ事ができたが、社内研修まで行う事が出来ず、研修資料のみ配布を行う事で他職員も興味を示せるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご自宅や施設、病院へ訪問し、ご本人とお話しさせてもらっています。入居契約書や重要事項説明書に沿って十分な説明を行い、不安・疑問等にお答えし、理解を頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から電話や来園時、毎月の請求書と一緒に白寿園だよりを同封し日頃の様子を伝えており、共に要望や意見を聞くよう努め、話やすい雰囲気作りを心掛けています。現在は新型コロナウイルス流行の為、運営推進会議での家族意見は聞き取れていません。	利用者からは日常の生活の中で思いを聞き取り、支援記録に記載している。家族からは電話や来園時に意見を聞いている。中には手紙を送ってくれた家族もいた。窓越しでの面会を継続して行い、利用者個人の写真、近況を載せたお便りを作成し、情報の発信にも努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談時に、意見や要望、提案などを発言できる雰囲気作りに努めています。業務上の提案等に関しては、実現できるよう取り組んでいます。	普段の仕事中でも管理者と顔を合わせる機会が多く、その場で意見や提案を聞いている。また、自己評価の面接を行っており、取締役と管理者が連携し、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の改善に取り組んでいます。年2回の人事考査もあり、自己研磨・啓発が賞与に反映されている為、レベルアップにつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や、研修で学んだことを他職員に周知するため、勉強会で発表したりと学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研修参加など数は少なかったが職員が希望すれば状況を見ながら参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に体験入居を行ったり、事前に情報収集を行ったりして、本人が安心して生活を送れるよう努めています。本人及び家族の言葉にも耳を傾け信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者及び管理職・リーダーが入居前や入居後など家族としての思いや願いなど面会時や電話、訪問を行い何でも話してもらえるような雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困りごとやこれからの思いについて聞き取りや書面に記入して頂き、状況把握に努め自分らしく生活を送れるような支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で個々の役割があり、一緒に行う事が1日の自然な流れになるような雰囲気作りを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切に頂けるよう面会や外出、電話等行ったり、記念日などは家族と過ごす時間をとるよう調整を行ったりしています。入居したことで更にお互いの良い所を再確認し良好な家族関係を築く事ができるような環境作りを心掛けています(今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、面会制限や禁止などさせて頂く事もありましたが、必要時の受診付き添いや衣類、物品の協力をお願いしています)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望する方には馴染みの理美容室に行ったり、ご兄弟の葬儀等職員やご家族にて支援を行えるように努めたりしています。他にも大正琴のお弟子さんと呼んでの演奏会等も開催する事もあります(令和3年度は2名の利用者様の兄弟や友人の方にて2度開催しました)。	各担当者が利用者一人ひとりの写真、情報をお便りに記載し、入居中の近況を細かく伝えている。家族以外の親族が見ても分かりやすいと好評である。利用者家族の提案、協力により、大正琴の演奏会を開催することができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の段階から、どの方と気が合いそうかなど検討を行い馴染みの関係作りに努めています。食事の配置やイベントなどの配置にも気を配り互いが安心できる時間を過ごす事ができるよう環境面でも支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時等は次の場所でも安心して生活を送る事ができるような限りの情報提供を行っています。また、施設、家族、協力医の間で気軽に相談できるような関係作りにも努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日々の会話やしぐさ、表情や行動から汲み取り本人の意向の把握に努めています。家族の思いも会話の中から汲み取り、プランに反映できるよう努めています。	日々の関わりの中で思いを汲み取り、情報はタブレットを使用し、支援記録に記載している。毎月開催しているミーティングで、担当者が中心となり利用者の状況を話し合い、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人、家族から生活歴を確認し、アセスメントシートに記載しています。また、新しく得た情報は随時追加して共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や行動把握表、バイタル表や受診票に記録をとり、個々の状態把握情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者、ケアマネジャーにてモニタリングを行い、本人・家族の意向の確認、利用者の状態に合わせてミーティングを行い、随時ケアプランの見直しも行っています。	担当者が日々の情報をもとに目標を立て、ケアマネジャーが計画書を作成している。家族からは面会や電話で意見を聞き取っている。家族の意向や利用者の状態に合わせてミーティングを行い、現在の状態に沿った支援ができるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を支援経過に項目別に記入。個々のケアプランや情報などを目のつく場所に設置し、職員が情報共有、できる限りプランに基づいたケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩やドライブ等、外食、法事や墓参りなど、希望に応じた支援をしたり、ご本人にとって一番良い方法を考えるようにしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、当施設イベントに地域の方が気楽に参加していただけるよう努めたりしていたが2年間は新型コロナウイルス感染拡大防止の為行っていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の思いに応じ、必要であれば協力医を紹介しています。通院可能であれば、家族にて付添いをして頂き、現在の状態が分かるような書類を作成し家族に手渡ししたりFAX送付を行ったりして適切な治療が受けられるよう努めています。薬剤師にも情報共有行っています。	家族、本人の希望、病状に合わせて、協力医以外でも受診することができる。協力病院は3ヶ所あり、希望に合った住診を受けることができる。受診は家族が付添い、連絡シートを使用し、医師、薬剤師と情報を共有している。また、訪問歯科診療も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在の為、ケアマネジャーが主治医と連絡を密にして、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、情報提供を行っています。担当看護師や相談員とも連絡をとり、早期退院できるよう努め、家族の思いの再確認も踏まえ一緒に今後の生活への注意事項等を聞くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込みがあった時点より、重度化した場合や看取りを行っていない事について説明し、ご理解を頂いています。	事業所ですることを記載した指針を作成している。入居時や状態の変化に合わせて、説明、相談しながら対応している。体制を整えば看取り対応も進めていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にAEDを設置し、緊急時に対応ができるようマニュアルを整備。ケアマネジャー・管理者・リーダーと連絡をとり、適切な対応が出来るよう努めています。緊急時は、救急車要請。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。新型コロナウイルスが収まれば地域の避難訓練にも参加予定となっています。	年2回避難訓練を行っている。また、AED講習など緊急の対応の研修も開催している。災害の対策としては、水や食料などの備蓄品を準備している。地域の協力体制を計画的に行うために自治会等と相談中である。	避難方法、経路を確認し、地域住民と協力体制を築き、災害時における対策がより実用的なものとなるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、更衣といった場面ではのれん設置、扉を閉めるようプライバシーに配慮し、勉強会やミーティングなどで声掛けや接し方についての理解を深めたり振り返りを行ったりしています。	尊厳やプライバシーの確保について、外部講師による研修や事業所内での勉強会を行っている。言葉使いや声の掛け方など、気になることがあれば職員同士がその場で注意しあい、利用者が穏やかに過ごせる対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の思いを確認したり、選択肢を設けたり、目で見て選んでいただく等、自己決定が出来るような対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、できる限り本人の思いを優先し、希望に沿えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理容にて、本人の思いを伺いながら、カットだけではなくパーマやカラーを行っています。入浴時には本人と一緒に着たい服を選んで頂いたり、日々の身だしなみは必要に応じて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配置や盛り付けなども考慮し、食事の時間を楽しんで頂けるよう努めています。下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いに盆拭き等一緒に行っています。	湯煎の食材や、職員手作りの物を組み合わせ、利用者と一緒に準備、配膳、下膳を行っている。行事食、テイクアウト料理、ホットプレート調理など、季節やその時の思いに沿った食べ物を工夫している。また、庭でのランチやバーベキューなど、職員も一緒に食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量のチェックの他、摂取状況も観察した上で食事形態、ご本人が好む飲み物等の提供を行い、無理なく摂取できるよう支援しています。 摂取量が低下された利用者様への支援とし家族にも協力を仰ぎ、本人の気持ちに寄り添い摂取できるよう支援する事もあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や口腔状態に応じ、声掛けや準備、介助など支援を行っています。夕食後は義歯消毒をし清潔に努めています。上手く口が開けられない方については訪問歯科利用し定期的に口腔内の観察、掃除を行ってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合ったパットの使用とトイレへの声掛けをしています。歩行状態も考慮し夜間ポータブルトイレ設置等、個々に応じた排泄環境に努めています。	利用者の能力に合わせた対応で介護計画を作成している。また、排泄把握表に、時間、使用する介護用品を記載し、利用者ごとの対応がわかるよう工夫している。パッドなどの介護用品は使用頻度や品物を随時検討し、利用者に向うものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムや水分量をチェックし、状況により牛乳・ヨーグルトを提供。医師の指示の下、緩下剤の調整などを行い排泄コントロールも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴して頂けるよう支援を行っています。入浴剤の使用や2種類の浴室が用意されており、個々の状態に応じ入って頂いています。本人のタイミングに合わせた声掛けの工夫や嫌がられる方には無理強いせず時間や人を変更する等し、安心した気持ちで入浴できるような環境に努めています。	週2回以上入浴できるよう調整している。希望があればその日に入浴することもできる。音楽を掛けたり、一緒に歌を歌ったりと入浴中も楽しめるよう工夫している。また、シャンプー、ソープ、クリーム等、個人の好みや皮膚状態に合わせた物を準備するなど、きめ細かな配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間や就寝前の習慣が違う事もあり、テレビを観たり、本人が安心できるような布団を提供したり、室温、湿度調整を行い気持ちよく眠れるよう支援しています。夜になると不安になる方に関しては都度話を聴いたり、温かい飲み物を提供したりして安心できる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意。個人ファイルに処方箋を綴り、情報を共有しています。薬の変更時は副作用や状態悪化が見られていないか観察を行い、主治医に報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除機掛けや床拭き、洗濯物干し・たたみ、下ごしらえや盛り付け等、個々の能力や思いに合わせて一緒に行っています。本人の食べたい物などを聞き取り、昼食に提供したり、出前や仕出し等を取ったりして楽しみや気分転換に繋げています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスや大雪もあり、外出の頻度は減少したが、施設周辺や玄関先、ドライブ等できる時は行っています。家族の思いもあり感染対策の一環として今年度は自宅で昼食を食べるなどし、家族と過ごす時間の確保に努めています。	近隣の散歩や敷地内での食事、活動を行い、外で過ごす機会が増えるよう工夫している。春の花見ドライブでは、利用者の自宅近くにある寺の桜を見に行くなど、より楽しめるよう行く場所にも工夫を凝らしている。新型コロナ禍が収束すれば色々な所に行きたいと計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度管理されている方はいるが殆ど使用する事はない。本人の安心感の為持っています。必要な物品などは施設にて立替購入や家族様にて購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される際は、ご家族にもご理解いただいた上で電話して頂いています。携帯電話持参の方に関しては、個々で家族と連絡を取り合ったり、充電の仕方が分からない方に関しては、時々確認し常に連絡が取れるよう対応したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにはわかりやすい表示をし、使用中の札も用意しています。中庭に花を植えたり、洗濯物を干したり、生活感や季節も感じられるようにしています。	2つのユニットの環境はそれぞれに個性があり、利用者は行き来して心地よい場所で過ごすことができる。写真や歌などを壁に掲示し、歌ったり、見て楽しんだり、利用者が笑顔になる工夫が随所にみられる。また、清掃に障害者雇用を活用し、地域との繋がりにも役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファには自然と仲の良い方々で集まり、会話をしたり、個々の趣味を楽しまれたりしています。その他にも廊下に掲示物を展示し散歩がてら季節を感じて頂けるような雰囲気作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品を自由に飾る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	各居室には洗面台、ベッド、エアコン、タンスが設置されている。写真やぬいぐるみなど、利用者の慣れ親しんだ物や、家族からの贈り物などが飾られ、居心地よく、居室にいても楽しく過ごせる環境を目指し工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに分かりやすく貼紙をしたり、本人の生活スタイルに合わせた必要物品などを固定の場所に置いたりして分かりやすい環境作りに努めています。		

2 目標達成計画

事業所名:グループホーム白寿園戸出

作成日: 令和 4 年 6 月 28 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	新型コロナ禍の中で委員会の開催ができていない状態であり、職員のみや書面での開催が現状であった。その為地域や家族の意見反映ができていない。	感染症拡大の可能性も見越して開催が出来なかった場合も踏まえた上で事前に意見を頂けるような体制作りを行いホームの運営に生かす事ができる。	・運営推進開催の案内を送付する際に、議事録の内容に関する意見も記入できるようなアンケートなどを作成する。 ・アンケートをまとめ結果を推進会議委員や家族にも送付の他、施設掲示板にも掲示行う。	12ヶ月
2	35(13)	災害時の避難場所の確認、避難時の誘導や協力体制が不十分である。 災害時の備蓄品を運ぶ際の方法や備蓄品についても質素なものになっている為検討が必要である。	・地域住民との協力体制を築けるようにする。 ・災害時の対応に関して職員間で周知する。	・運営推進会議の中で防災訓練の協力要請の呼びかけや地域の防災訓練なども参加させて頂けるよう依頼する。 ・備蓄品の置き場所に関して再度検討、運搬する際、どのようにして運ぶのかも勉強会やミーティングにて職員間で周知、共有行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。